

## マネージメント情報

### ※ 人工授精について考える

先日、当社で人工授精業務を開始するにあたり、種雄牛の選定の話し合いが行われました。生産者の希望(選定基準)は以下のようなことが選定基準になりました。

1. 受胎するというのが一番
2. 生産寿命が長い牛  
四肢が丈夫、  
乳房・乳頭の形状(搾乳性)  
体細胞指数
3. 近親交配を避ける
4. 判別精液の利用

おそらくみなさんも同じようなことを考えられていると思いますが、実際に農場の牛群系統について把握している人はどのくらいいるのでしょうか？話しの中では規模が大きくなると少なく、昔は一頭一頭把握していたが、100頭を超えた頃から限界を感じてそこから先は人工授精師まかせという方が多いようでした。

人工授精師まかせまかせということは  
授精時には立ち合わない(立ち合えない)  
受精時の牛の状況(子宮・卵巣)がわからない  
どんな精液を授精したのかわからない

↓

コミュニケーション(会話・意思疎通)不足

↓

受胎率の低下の一因？

大学先輩で釧路管内のJAの部長さんがいます。その先輩と先日お話しする機会があり、酪農(JAの業務)で一番大切なことは繁殖(人工授精業務)ということに、今になって気が付いたといっていました。そのJAは現在、授精師の増員・技術向上や繁殖管理業務について積極的に取り組みだしたということです。

酪農で生産に結びつくところは「牛」しかないのですから当然と言えば当然の考えですが……。みなさんも今一度この人工授精(繁殖)について考えてみて下さい。

- .....
- ・ 現在 THMS 顧客農場で4農場が自家授精を実施しています。今年の4月から始めた農場は驚くほど妊娠率が上がっています。また、H21年度の北海道での家畜人工授精講習会が6/5迄3週間にわたり清水町行われています。2農場(2名)の方が難関の受講前選抜審査をパスし人工授精師資格を取るべく奮闘されています。当社でも来月より人工授精業務を始めることになりましたが、JAが主体であった人工授精業務から開業授精所や自家受精を行う農場が今後増えていくことになるのでしよう。ここまでの内容は先月のM情報に書いたのですが、ぐ切に間に合いませんでした。参加された2名は無事に試験に合格し後は免許証の発行を待つばかりとのこと。根室管内からはもう一名、別海町から共同経営の大規模農場の後継者の方が参加されていたということでした。みなさん考えることは同じようで今後とも大農場の場合には自

家授精する傾向になるのでしょう。

JA の中では一般的に人工授精業務は赤字部門というかサービス部門という話を良く耳にします。しかし、十分に黒字経営をしている開業授精所があるということも事実です。その理由はしっかりとしたサービス（様々な情報）と授精技術を持っていること。それからもう一つ移植技術が高いということが考えられます。

今後の自家授精の普及を考えるとわれわれもそうですが、特に JA の人工授精師は今まで以上に如何にして農場に貢献できる技術を持つことができるかということに尽きると思います。お互いに切磋琢磨していかなくてはなりませんね。

- ・ 今年春から天候に恵まれていましたが、先週は根室らしく雨が続き肌寒い天気でしたが、漸く回復し今日から一番草が始まった農場がありました。作業を終えるということよりも良質（成分・品質）の粗飼料を確保するということが一番に考えて事故の無いように頑張ってください。
- ・ 6/15（日）に又々の全体ということでもあったので、気晴らしがてらに弟子屈の摩周文化センターで NHK の公開録画の抽選に当たり吉幾三と坂本冬美がゲストということもあり行ってきました。演歌歌手というのは本当に歌が上手ですね。昔から「歌は演歌」と言い切る U 牧場の U さんの気持ちが漸くわかりました。

21.06.17. Y